令和六年度大阪府公立学校教員採用選考テスト

高等学校　芸術（書道）　解答用紙

（4枚のうちー）

（解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること）

受験番号

3

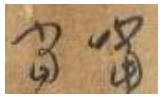
得点

(1)

①

②

③



(2)

①

川

②

衣

③

左

(3)

②

作品名

高野切第三種

伝承
筆者名

伝　紀貫之

①

あした（多）つのひとりお（於）くれてなくこゑはく
も（毛）の（能）うへま（万）て（弓・氐）きこ
え（江）つか（可）な（那）む

(4)

②

作品名

真草千字文

筆者名

智永

①

閑

処（處）

沈

黙

寂

寥

求

古

尋

論

令和六年度大阪府公立学校教員採用選考テスト

高等学校　芸術（書道）　解答用紙

（4枚のうち2）

（解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること）

受験番号

3

（続き）

(5)

①	②	③
筆を持って書くときの腕の構え方。腕法には、枕腕法、提腕法、懸腕法等がある。枕腕法とは、左手を紙の上に置き、これを枕にして、右手を乗せて構える腕法のこと。提腕法は肘を机上に接して、手首は浮かせて構える腕法。懸腕法は腕も肘も机から離して宙に構える腕法。それぞれの長所短所があるので、使い分けるとよい。日下部鳴鶴が回腕法で書いた話は有名。	平安時代に発達した平仮名は、一音につきいくつもの字体があり、そのために変化に富んだ仮名書道が発達した。明治三十三（一九〇〇）年の「小学校令」により、一字一音の仮名が制定された。現在一般に使われている平仮名に対して、それ以外の仮名を変体仮名と呼んでいる。	顔真卿の行書で、安史の乱で殺された甥の霊を祭った文の草稿である「祭姪文稿」、伯父の墓前で霊を祭った文の草稿である「祭伯（父）文稿」、右僕射に抗議した文の草稿である「争坐（座）位文稿」の三つの草稿のこと。争坐（座）位文稿は、米芾が顔真卿の第一であると讃えている。

令和六年度大阪府公立学校教員採用選考テスト

高等学校　芸術（書道）　解答用紙

（4枚のうち3）

（解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること）

3

（続き）

受験番号

(6)

	図版A	図版B	図版C	図版D
作品名	温泉銘	楽毅論	薦季直表	馬王堆帛書
筆者名	太宗皇帝	光明皇后	鍾繇	
時代	唐	奈良	三国・魏	前漢

(7)

① ×	⑥ ○
② ○	⑦ ○
③ ×	⑧ ×
④ ○	⑨ ×
⑤ ○	⑩ ×

4

得点

(1)

図版A	図版B	図版C
「九成宮醴泉銘」は欧陽詢の書。唐の太宗が九成宮に避暑したとき、清泉の湧出を発見した記念碑。魏徴の撰文。石碑は陝西省麟游県の九成宮遺址に現存する。欧陽詢は初唐の三大家の一人で、唐の太宗に重用された。欧陽詢の楷書法は「欧法」とよばれ、九成宮醴泉銘は「楷法の極則」と言われている。他に「化度寺碑」「皇甫誕碑」がある。	「孔子廟堂碑」は虞世南の書。唐の太宗が文教復興のために、長安に孔子廟を再建した記念の碑。原石は焼失し、重刻の石碑が西安の碑林博物館に安置されている。虞世南は初唐の三大家の一人で、唐の太宗に仕えた。虞世南の楷書法は「虞法」とよばれ、気品と温雅な趣が感じられる。他に「積時帖」がある。	「雁塔聖教序」は褚遂良の書。玄奘法師がインドから経典を持ち帰り翻訳した業績を讃えて建てた碑。太宗と高宗がそれぞれ「聖教序」「聖教序記」を著し、建碑した。この2つの碑を合わせて「雁塔聖教序」という。長安の慈恩寺の大雁塔に安置されている。褚遂良は初唐の三大家の一人で、褚遂良の楷書法は「褚法」とよばれている。楷書「孟法師碑」の他、行書の「枯樹賦」「哀冊」など行書も有名。

令和六年度大阪府公立学校教員採用選考テスト

高等学校　芸術（書道）　解答用紙

（4枚のうち4）

（解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること）

受験番号

（続き）

(2)

○用筆・運筆

・すべて楷書体。
・Aの用筆は精密、結構は厳正、楷法の極則と言われている。
・Bの用筆はゆったりしていて品位が高い。
・Cの用筆は、隷、行の用筆を楷書に取り入れ、華麗で妙。細い線だが、強靭で粘りがある。
・磔の部分は、Aは短く力強く、Bはゆったり長く、Cはなめらか。
・A、Bは露鋒、Cは露鋒と蔵鋒が混在。

○字形の特徴

・すべて横画が右上がり。
・Aは背勢、Bは向勢である。
・A、Bは均整の取れた縦長の字形、Cは方形。
・三作品とも、横画が細く、縦画が太い。
・A、Bは文字の重心が左にあり、横画の右側が長い。

(3)

・美の構成要素や表現性などから作品を捉え、根拠をもって批評する。
・グループワークを取り入れ、芸術科書道の特質に応じた言語活動を通して、意見を伝え合う。
・学校図書館を活用して調べ学習を行う。
・コンピュータや情報通信ネットワークを活用して、調べ学習を行う。
・コンピュータや情報通信ネットワークを活用して、端末に画像を取り込み、拡大して鑑賞する。